

新宮山彦ぐるーぷ第2022回

行仙宿補給路第一ベンチの再設置工事と

奥駈トレイルランサポート

◇実施日：2019年05月11日(土)～12日(日) 晴

◇参加者：梶野照雄(11～12日)。沖崎吉信、生熊敏男、

山川治雄、児嶋道夫。参加者5名、延6名。

5月11日(土) 奥駈トレイルランサポートなど

毎年、ゴールデンウィークの次の週末に行われている「トレイルラン大峯奥駈」が今年で何回目になるのかは知らないが、ここ数年、行仙宿で水の提供、コーラの販売するのが恒例行事となっていました。

ランナーの顔ぶれもほぼ同じで、一年に一回、それも極短時間しかお目にかからないが、どちらも覚えているのが不思議なくらいだ。12日には沖崎さんたち4名が、第一ベンチの復旧工事に上がってくるとの連絡を受けた。午前11時頃までにはランナーが通過するので、第一ベンチまで降りる予定、と伝えた。



電球型蛍光灯を荷揚げ



チェインソーは残す



行仙宿に到着

11日お昼前に登山口着、昼食を済ませてからモノレールに食料、電球型蛍光灯、チェインソーなどを積込み上昇開始。

モノレール終点で、まず最初に食料と電球型蛍光灯を小屋まで荷揚げする。小屋に着くとトイレに誰か人が入っている。荷物を管理棟に入れ、小屋に戻ると登山者が一名、逆峯で昨日は持経宿で泊り、今日はここでゆっくり休養して本宮を目指すとのことだった。しばらく話をしてからチェインソーを取りにモノレール終点まで戻った。

今日のメインメニューは鉄塔の少し上にある斜木を切って、滑車とロープで引き上げることである。ウォームギヤの入ったウインチは重く(25kg)、チェインソーと同時に持って歩くのは困難なので、今日は軽い滑車4個と6mmのロープ(30m)を組み合わせてテストした。念のためにハンドプラー(1ton)も持って来たが、使うことは無かった。



滑車を使って引き上げ

引き上げ完了

今回、滑車は2個を動滑車、1個を固定滑車として使用、理論上引く力は4倍になるはずだ。斜木は直径が13cm、長さ約7mで先端の枝が別の木に引っかかっている。先端は斜面から高い

位置にあり手が届かない。根元から1mほど先に滑車とロープを取り付けて、斜め上方より引張ってから根元付近を切断、ゆっくりロープを引くと徐々に木が上がってきた。しかし50cmほど上がった所で動かなくなつた。木そのものの重さよりも枝が引つかかっている抵抗がかなり大きかった。引つかかっている枝を慎重に切断した。これで引き上げが可能になり、2mほど引き上げたところで先端の細い部分を切り落として登山道脇に置くことが出来た。滑車とロープによる引き上げ方法は、引き上げる方向を若干高めにとることで十分実用に耐えうる事が判った。



水場は涸れる寸前



水場から戻る



照明交換

小屋には先の一名の他に2名の宿泊者がいた。後の2名も逆峯で、今日は深仙宿から来たそう。ポリタンクを調べると、殆どが空になっていた。10Lのタンクを担いで水場へ降りる。途中、ちよつと足を滑らせて咄嗟に傍の木に腕をまわしたら、腕に擦り傷が出来てしまった。半袖の時期には特に注意しなければなら

い。水場に到着、アリヤリヤ！流れてない。溜まっている水は澄んではいるが、水流が無い。奥の岩肌をかるうじて伝い落ちていく程度だ。水面のゴミを除けて、ポリタンクを一杯にしたが、あと何日かで水は流れなくなるだろう。ポリタンクを担いでゆっくりと小屋を目指す。少し漏れているようで、背中が濡れてくるが立ち止まらずに小屋に戻った。

ポリタンクを降ろしてすぐに電球交換、発電機を始動する。やはり新品は明るい。

ストーブに火を入れながら宿泊者と話しをすると、明朝は4時に出発するという。この時間は早すぎるので管理棟へ引越すことにした。持ってきた天井をチンしてゆっくり夕食を取る。

午後7時過ぎに小屋を見に行くと、全員が寝息を立てていた。

発電機を止めて管理棟に戻るが、LED照明が点灯しない。小屋のLED照明は点灯していたが、12VのLEDが非常に暗い。先日取り付けた5VのLEDは良好なので、バッテリーの電圧が下がっていると思われる。

後で児嶋さんに聞くと、小屋は充電コントローラーを経由せずに接続しているが、管理棟とトイレはコントローラーを経由しているの、バッテリーの電圧が下がれば自動的に出力がOFFになる、との事だった。

行動タイム

補給路登山口 11:55→13:07 行仙宿 13:15→13:40 鉄塔上斜木 14:52→15:42 補給路登山口→16:25 行仙宿→16:53 水場→17:29 行仙宿。

5月12日(日) 晴

午前5時前、窓から差し込む太陽の明るさで目が覚めた。

小屋を見に行くと3人の姿は無く、きれいに片付けられていた。6時半ごろまで横になって過ごし、お湯を沸かして紅茶を入れる。今日の朝食はパンにした。7時から6日に管理棟東側斜面から引き上げておいた杉枯枝の処理を始めた。



枯枝を整理



チェーンソーを分解清掃



直後に児嶋さんから電話があり「インパクトドライバーを持って来てくれ」とのことだったので、モノレール終点までドライバーを降ろして、沖崎さんにその旨をメールする。
再び枯枝の処理、燃やせるゴミやトイレの紙を焼却炉に入れて、枯枝と同時に燃やす。大変よく燃焼するので、ゴミは全て灰になった。枯枝の太い部分は薪用に小切った。



トレラン到着



出発



4人目も通過

8時半ごろから、笠捨山日帰りと思われる登山者が5名通過、過去のトレランで早い人は9時過ぎに到着したが、9時半を過ぎても到着しない。チェーンソーを使ったので、分解清掃を始めた。長い間掃除していないので、オイルが硬くなって落とすのに時間がかかる。ソーチェーンを外してブローアード掃除していると、トップのランナーが到着。コーラ2本をお買い上げ、今年の参加者は8名で、内4名が前鬼でリタイヤ、今日走っているのは4名だけだと判った。人数が少ないので、ペットボトルの水とポカリを提供、すぐに後続の2名が到着した。彼らは水の貴重さが良く解かっているのと、荷物の重量を重くしたくないことで、必要最低限の量しか持って行かない。連休中の宿泊者の中にポリタンクのコックを開けたまま歯磨きをしていた人がいたこととは雲泥の差がある。トップは7〜8分、後続2名は4〜5分の休憩でそれぞれ出発した。チェーンソーの清掃が終了し、4人目のランナーが11時に通過した。この人は70歳を超えているようだ。
11時5分、生熊さんが一人で上がって来られた。3人は第一ベンチ工事中で、生熊さんは備蓄品の荷揚げと、前鬼で薪作りのための道具を取りに来られた。最終走者も通過したので、荷物をまとめて下り始めた。5分ほど下った所でガソリン缶を手に登ってくる山川さんに出会い、再び小屋に戻った。

行動タイム

行仙宿 07:20 → モノレール終点 → 07:50 行仙宿 12:35 → 12:58 第一ベンチ 13:16 → 13:30 補給路登山口。
(記：梶野)

5月12日(日) 第一ベンチの再設置工事

皆さん、奥駆道でも小屋でも、また水場においても、こうしたらあゝあるべきだ、など気にしていただいている。

今回の第一ベンチも、玉岡前相談役から復旧要請があり、その腐食の進み具合から、山川さんも気になっていて、早く交換する

必要があると考えられ、座面にする足場板2枚を準備、登山口にデポされていた。

平治宿の大掃除、10連休の対応も一段落したので本日、沖崎、山川、生熊、児嶋の4名が出向くことになった。またこの日は奥駆トレイルランのサポートで、前日から行仙宿泊の梶野君も途中から現場に降り手伝う、との申し出もあった。



浦向道、十津川橋に標識設置



11時過ぎ、行仙宿到着



本日の参加者



背板の施工中



現場に3名が集結。いつもならここで、どうする、こうする、と一悶着あるのだが、児嶋さん持参の足場用鋼管4本を見れば文句のつけようがない、構造・工法・作業手順は児嶋親方の主導でスムーズに運ぶ。山川さんはモノレールでの荷揚げ途中、足場板一枚を落としてしまい、歩いて回収に降り、ガレた沢を横切つて、ほぼ水平に移動、現場まで運ばれた。

朝8時、沖崎車一台で出発、児嶋、山川宅へ寄る。久々の熊野市経由での行仙宿行きだ。途中、浦向集落先の森林組合倉庫横の浦向道(旧通信道)入山登山口の道標を取り替えた。

9時半過ぎに行仙宿登山口に着く。モノレールに生熊、山川が乗り、座面の板2枚、筋交い用の材木4本と行仙宿の備蓄品(缶ビール・スーパードライ1ケース、ガソリン5L、洗濯済み枕カバー30枚)を積み込む。

生熊さんは備蓄品を行仙宿へ荷揚げ、山川さんはベンチ資材を現場へ降ろす、沖崎、児嶋の2名は材料や工具を背に第一ベンチへ向かった。

沖崎は十五曲の上方より、寄贈丸太3本を2往復して現場へ降ろす。資材、工具も揃い、着工から一時間ほどで完成した。

最後に筋交い2本を打ち込み、山川さんは持参の紙やすりで座面のザラツキをきれいに仕上げてくださいました。背板は行仙宿で材料を調達し、帰りに取り付けることに行仙宿に向かった。

モノレール終点からは、山川さんはガソリン缶、沖崎が生熊さんのザック、児嶋さんは薪材を手にする。途中で降りてきた生熊さんと出会う。「もうできたんか?」と、早く完成したことにビックリのご様子。

行仙宿に到着し、梶野君を含めた5人で昼食、沖崎持参の珍しい破竹のお寿司や来週の熊野修験接待後に予定している前鬼・小

仲坊での作業、釈迦ヶ岳の砂荷揚げ、それと青木君より地藏岳（鎖場のある）のお地藏さんが無くなっているとの報告が話題となる。



第一ベンチ完成



座り初め



登山口に下山

昼食後、生熊さんにモノレールを降ろしていただき、ベンチ背板（役行者像開眼供養の際にチェーンソー製材した残り）を持ち、第一ベンチへ運ぶ。

現場で寄贈丸太を半分に切り、先を付けてベンチの後ろに立て、持ちおろした板を取り付け。ここでもあつという間に完成した。最後に杭2本を打ち込んで固定、立派なガッチリしたベンチが完成した。

足に単管鋼管を使用したので、木材に比べると耐用年数も格段に長くなるだろう。

本日の作業は滞りなく終了、午後3時半ごろに家に帰着した。

帰宅後、浅井證善師より携帯にメールがあり「5月12日日本日、深仙登拝、砂は全て上がっていました。30日に私の関係者若者10名程度が釈迦ヶ岳予定、彼らの功德を積むため是非荷物を用意していただければ有難く思います、因みに千丈平の水はかれて

いました一雨欲しです（原文のまま）」とのこと。

来週、200袋を登山口にデポする旨を返事する。

梶野君の話では、行仙の水場も流れ込みは殆ど無く、下にたまっている分のみ。これはいつまで持つやら？

（記：沖崎、写真：梶野）